

## 図書館からのお知らせ

- ・ 蓋付きの飲み物（ペットボトルや水筒）の図書館内への持ち込み，飲用ができるようになりました。（試行）水分補給をして，暑い夏を乗り切りましょう。
- ・ 夏季休業中は貸出期間が長くなります。大学院生・教職員は平成26年7月30日（水）～9月4日（木），学部生は平成26年7月30日（水）～9月18日（木）に借りると，返却期限が10月3日（金）になります。貸出期間が長くなるこの時期に，特集で紹介した本などを読むのはいかがでしょうか？
- ・ 図書館Webサイトでは先生方が本をオススメする「書物のリレーエッセイ」を連載していますので，こちらをご覧ください。（<http://www.lib.juen.ac.jp/essay/essay.html>）
- ・ 多くの方が利用できるように，平成26年8月11日（月）～9月21日（土）（教育実習3週間前～実習終了日前日）の間，小学校の教師用指導書の最新版は貸出禁止とします。ご協力をお願いします。

## 図書館topics



↑平成26年4月1日（火）より，iPadの館内貸出をはじめました！デジタル教科書やデジタル教材を試すことができます。ご利用ください。



↑平成26年4月4日（金）～6月30日（月）まで国立女性教育会館女性教育情報センター（埼玉県）から借り受けた本100冊を2階情報交流ゾーンで展示しました。



↑平成26年6月10日（火）～7月18日（金）まで新潟県立看護大学図書館と本を交換しあう「蔵書交換展示会」を行いました。後期にも開催予定です。



↑平成26年7月から新着の和雑誌を、放送大学の図書が並んでいた場所に移動しています。学習・研究や教員採用試験に役立つような雑誌がずらりと並んでいます。

## 上越教育大学附属図書館ニュース Vol.2



特集：本を読もう!!





# 特集：本を読もう!!



夏休みには、本を読もう。夏休みじゃなくても、本を読もう。今回は本の紹介です。



## 『大江戸リサイクル事情』石川英輔著(講談社文庫, 1997.10)

【附属図書館所蔵無し, 上越市立図書館から取り寄せできます】

『図書館ニュース』で紹介する本」ということで、中学3年の時に市立図書館で初めて借りた本を紹介したいと思います。当時、学校図書館とは違う「大人の世界」を垣間見た気がしたのを覚えています。

著者・石川英輔氏は、江戸時代について、物を最大限に利用し、循環させることで成り立っていた社会として「植物社会」・「過去1・2年の太陽エネルギーでまかっていた社会」と評しています。(意外でしたが、今言われている「持続可能(sustainable)」という表現もありました。)取り上げているテーマも、藁・竹・絹・綿・灰・木etc...といった感じで章立てられています。直接植物と関係無さそうなのは(動力としての)水力ぐらいでしょうか。

例えば...灰一つ挙げてみても、今でこそアク抜きか肥料ぐらいにししか使われてないイメージがありますが、当時は酒造り・染め物の媒染剤・洗剤・陶器の釉薬・金属の精錬といったところにも使われ、さながら化学薬品のような扱いも受けていたそうです。(何せこの章のタイトルが「家庭の竈(かまど)は化学工場だった」というぐらい。)そして、民家から灰を回収する「灰買い」-仲買人-灰間屋-各業者も流通経路があり、この循環が産業として成立していた様も描かれています。市民活動のレベルとしてではなく、江戸の社会経済システム自体に「リサイクル社会」としての要素が組み込まれていたのかもしれない。

こんな感じで、当時の絵がたくさん載せられながら、江戸の「リサイクル社会」について語られています。「リサイクル」「エコロジー」と肩肘張らなくても、自分たちのご先祖様がこういう暮らしをしていたんだな、という思いで読んでも十分面白いです。

中3当時は、地球環境問題が話題になり始めた頃でしたし、江戸時代についても「厳しい身分制社会」「貧しい農民」といったイメージで語られることが少なくなかったため、新鮮な思いで読み、「江戸時代スゲー-----!!!」と感動ものでした。正直、「こんな社会がまた来るといいな」と思っていた節もあります。ただ十数年たってみると、江戸時代のエコロジー性よりもむしろ、このような社会を形成することができたシステムの方に興味を持ちました。「こんな社会がまた来る」かどうかは...無理かもしれません(苦笑)。

そんな感じで、受け止め方のギャップも実感しながら、懐かしさと気恥ずかしさが入り交じったような気持ちで久しぶりに読んでみました。

著者は、このほかにも「大江戸●●事情」というタイトルで多くの本を出しています。自分もこの本を読んでから、一時はこのシリーズを読み漁りました。個人的なお勧めは、

- ・大江戸えねるぎ事情 (江戸時代のエネルギー収支(!!)について解説)
  - ・大江戸テクノロジー事情 (江戸時代の科学技術・からくりについて解説)
  - ・大江戸番付事情 (色々な「番付表」に着目して江戸時代の生活を解説)
- です。こちらも面白いですよ。(総務課 SY君の隣人)

## 『錯視大解析：脳がだまされるサイエンス心理学の世界』北岡明佳著(カンゼン, 2013.8)

【請求記号145.5/Ki 72】

錯視って知っていますか? 目の錯覚のことです。この本はなぜ錯視が起こるのかを、科学的に説明しています。実は原因が分からない錯視もあるそうです。

形の錯視, 明るさの錯視, 動く錯視, 色の錯視, 消える・現れる錯視, 写真による錯視の6つに分類し, 166点の作品が収録されています。

私が一番好きな作品は、「葉の波」(p.75)です。紫色の背景に緑色の葉っぱが描かれているだけですが、ゆらゆら、ゆらゆらと動き出し、面白くて不気味です。

文章を読まなくても、見ているだけで楽しめる一冊です。(図書館 下城)



紹介するのは絵本ですので、読むのに時間はかかりません。忙しいかたも、びっくりするほど、あっという間に読み終わりますので、是非手に取ってみてください。読む時間は、あっという間ですが、読んだ後、長い間、心に残ります。きっと。



『わすれられないおくりもの』スーザン・バーレイ作・絵(評論社, 1986.10)【請求記号 絵本/わ】  
森の長老アナグマとアナグマの友だち達ができます。忘れられない贈りものとは、いったい何だと思いませんか。みなさんには、忘れられない贈りものがありますか。



『100万回生きたねこ』佐野洋子作・絵(講談社, 1977.10)【請求記号 絵本/ひ】  
100万回も死んで、100万回も生きた、りっぱな縞のとらねこが主人公です。どうして、100万回も生きたのでしょうか。最後は、どうなるのでしょうか。  
『悪い本』宮部みゆき作(岩崎書店, 2011.10)【請求記号 絵本/わ】  
暑い夏の夜にどうぞ。コワイ意味で記憶に残ります。涼しくなりますが、眠れなくなるかもしれません。「怪談絵本」のシリーズ名が付いています。(図書館 秋山)

## 『版画のはらうたI』くどうなおことのはらみんな詩; ほてはまたかし画(童話屋, 1992.10)

【請求記号 絵本/の】

かまきり、子りす、どじょうにかたつむり、虹や小川、夕日なんてものまで...。この本は、野原で暮らすさまざまな生きものたちが、ひとりひとり作文を書いているような形式の詩画集です。声に出して読みたくなるような、歌いだしたくなるようなリズムの詩と、ざくざくとしたタッチの温かみある木版画がぴったり合っていて、飽きずにすいすいと読めます。

詩はすべてひらがなで、子どもにとって身近な生きものたちもたくさん登場するので、小学校の国語の教材としても良いかもしれません。

もちろん子どもだけではなく、動物好き、絵本好きな大人にもおすすめです。虫好きな人も、無生物好きな人(?)も楽しめますよ。

図書館の3階絵本コーナーにもあるので、ぜひ手に取ってみてください。(大学院2年 伊藤)



## 『子どもが育つ条件：家族心理学から考える』柏木恵子著(岩波新書, 2008.7)【請求番号36/K】

現代は、子どもの育ちについて様々な問題が挙げられており、不登校や引きこもり、学力低下などよく耳にします。子どもを育てる側である親はどうでしょうか。親もまた、子どもに対しての虐待や育児放棄など多くの問題が起きています。このような問題をふまえて、この本では家族心理学と発達心理学の視点から子どもの育ちや家族の在り方について考えていきます。

長く家族心理学と発達心理学について研究してきた筆者だからこその意見がたくさん書かれており、子どもと子どもを育てる親、共に育つ環境を目指すことが大切なのだとか分かる一冊です。ぜひ読んでみてください。

(学部3年 朝倉)



## 『世界で一番美しい名画の解剖図鑑』カレン・ホサック・ジャネス, イアン・シルヴァース, イアン・ザクチェフ編著(イクスナレッジ, 2013.2)【請求番号720.7/Se 22】

1100年代から1900年代まで、年代を追って、世界の名画を鑑賞できます。名画の実物を目にする機会は、なかなかありませんが、この本は、作者、構図、時代背景だけでなく、作品を部分的に分けて、鑑賞の仕方が書いてあるので、とてもわかりやすいです。描かれている小物ひとつをとっても、描かれた意味を考えていくことが謎解きをしているようで、美術館へ行くのが楽しみになる本です。

(図書館 岡崎)

